

ふれあいランド岩手発

ウイニング

No.34

平成24年3月発行
いわて福祉社より
パートナー別添付録
(通巻571号)

**ふれあいランド岩手の指定管理者に
岩手県社会福祉協議会が再指定されました**

平成十五年の地方自治法の一部改正により、公立施設に民間活力を活用し、サービスの向上・経費の削減を図ることを主な目的とした指定管理者制度が、ふれあいランド岩手でも平成十八年度から導入されました。導入以降の六年間、岩手県社会福祉協議会が指定管理者として、当館の管理運営を行って参りました。

平成二十四年三月三十一日(土)をもって指定期間が満了することに伴い、昨年、岩手県において指定管理者の公募を行い、選定の手続きが進められてきました。

当協議会としては、福祉交流施設である当館を管理運営していくことが、当協議会の基本理念である「地域福祉を推進し、誰もが住み慣れた家庭や地域で、共に支えあい、自分らしく、安心して生活することができ、豊かな社会福祉の実現」に合致するという観点から、指定管理者として、再指定を受けるべく応募いたしました。

その結果、来る平成二十四年四月一日(日)から三年間の再指定を受けることができました。

四月から三期目の指定管理者として、再スタートを切りますが、当館の設置目的である県民の相互理解と交流の活性化を図り、もってノーマライゼーション理念の普及と高揚に努め、より利用者の皆様が安全かつ安心して利

用できる管理運営に取り組んで参りますので、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

**年に一度の文化サークルの祭典
「ふれあい文化交流会」開催☆**

昨年の十二月十七日(土)、当館の文化施設をご利用いただいている文化サークルの発表会である「ふれあい文化交流会」を開催いたしました。

「ふれあい文化ステージ」では、ふれあいホールを会場に、カラオケ、大正琴、和音、コーラス、ジャズバンドなど、バラエティに富んだ発表が行われました。

また、エントランスホールでは、生け花や手芸、陶芸、絵画、川柳などの作品を展示する「いきいき活動展」が行われ、たくさんの方々の目を惹きました。その他、茶道サークル「葉会」な

つめかいによる茶道体験や「ボランティアサークルとまと」による郷土食のへっちょこだんごが提供され、準備した二百食があっという間に完売しました。

子ども広場では、おはなしポケットの会による「紙芝居読み聞かせコーナー」を行いました。熱心に聞き入る子どもたちの姿が見られました。

「囲碁交流大会」も行われ、有段者の部、一級以下の部に分かれ、予選リーグ戦、決勝トーナメントと数々の熱戦が繰り広げられました。



**老眼鏡を
ご寄贈いただきました☆**

一月十九日(木)にメガネの松田(代表取締役社長松田陽二)様より、老眼鏡セットを三セットご寄贈いただきました。

利用者の皆様からは、「紙面などへの記入が行い易い」など、感謝の声がたくさん聞かれました。

ご寄贈いただいた老眼鏡は、総合受付へ二セット、スポーツ受付へ一セット設置させていただきました。

この場をお借りいたしましたので、改めて深く感謝申し上げます。



お知らせ

ふれあいランド岩手 開館以来の利用状況

平成6年12月9日～平成24年2月末

延利用者数……3,487,787人

内 訳		
文化施設	会議室・研修室・音楽室等	977,952人
スポーツ施設	プール・トレーニング室等	2,509,835人

運動のコツに納得！ 「カラダの本来の能力を引き出そう！」講習会開催

二月十二日(日)に、当館ふれあいホールと体育館を会場に「カラダ本来の能力を引き出そう！」をテーマに講習会を開催いたしました。

この講習会は、今年で四回目を迎え、正しい身体の動かし方や個性に合った身体の動かし方を学び、怪我をしない安全な身体の動かし方を実践することを目的に開催いたしました。

講師には、オリジナルな身体分析や調整理論である「レッシユ理論」の普及、実践で全国的にも有名な廣戸聡一氏をお招きいたしました。

午前部では、親子を中心に約四十名の方が参加されました。「カラダの能力を引き出そう！」をテーマに、身体の動かし方には個人差があり、無理にフォームの矯正などをせず、運動に自由度を与えていくことが大切であることを学びました。

午後の部では、高齢者や運動指導者を中心に約五十名の方が参加されました。「ゆがみや癖を正してカラダをリセット！」をテーマに、身体を動かす際には軸を安定させることがとても大切であり、いかにして身体に負担を与えずに、軸を作るかということについて学びました。

参加者の方々からは、「とても勉強になった」「また開催してほしい」などの感想が多く聞かれました。



アクティビティケアの 重要性を認識！

昨年の十二月十日(土)に、当館ふれあいホールを会場に「アクティビティインストラクター養成セミナー」を開催いたしました。

今回は、介護福祉士、ケアマネージャー、看護師、ホームヘルパー、学生など八十九名の方が参加されました。アクティビティインストラクターは、入所型施設の利用者等へ、日常生活に潤いをもたらすアクティビティを行う人材となります。また、日常生活に潤いがあることで、認知症の進行を遅らせる効果があると言われ注目されているケアの一つです。

セミナーでは、普段の生活では捨ててしまうような牛乳パックを利用した「おもちゃ作り」を行い、このおもちゃを通して、利用者との関わり方やコミュニケーションの重要性について学びました。

また、他国と日本における福祉の捉え方や高齢者の方々への接し方の違いや利用者サービスにおける介護職員が、なぜ介護福祉士と呼ばれるのか、海外における地域資源を活用したアクティビティケアの実践方法など、多くの事例等が紹介されました。

参加された方々からは、「レクリエーションとアクティビティケアの違いについて理解できた」「生き生きとした生活を送ることの大切さを学ぶことができた」などの感想が多く聞かれました。



自己ベストに挑戦！ 「さわやか交流水泳記録会」開催☆

昨年の十一月二十六日(土)、障がい者、高齢者(六十五歳以上)、一般(六十～六十四歳)の方を対象にした水泳記録会である「さわやか交流水泳記録会」を開催いたしました。交流会は今年で十五回目を迎え、参加された約八十五名の方々が、日頃の練習の成果を試し、自己ベストに挑戦しました。

標記記録会は例年、一月に開催しておりましたが、遠方から参加される方々もおり、積雪等の影響が大きいことから、今年度は十一月に開催いたしました。個人競泳の部では、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの距離別競技、補助具付競技、個人メドレーを行いました。

団体競泳の部では、メドレーリレーを行いました。ご家族や仲間の熱い声援に会場内は大変盛り上がり、参加者の皆様は、日頃の練習の成果を十分に発揮しておりました。

なお、当日は、当館登録ボランティアであるアクアボランティアの皆様をはじめ、盛岡第四高校、不来方高校の皆様にご協力をいただき、記録会を力強く支えていただきました。

多くの皆様を支えられ、お陰様をもちまして、盛会裏に終了できましたことに、深く感謝申し上げます。標記交流会は、来年も開催を予定しておりますので、ぜひ、ご参加下さい！



☆広報紙「ウイング」は、ふれあいランド岩手を上空から見た形と施設の基本理念であるノーマライゼーション(障がいや年齢などの垣根を飛び越え、だれもが利用できる施設であること)に由来しています。